第3種郵便物認可　第3種郵便物認可

創業115年の挑戦と革新

――「井戸」から未来の社会インフラまで

困難に立ち向かう顧客第一の精神

寺島氏　日さくは4月25日に創業115年という節目を迎えます。日本社会がさまざまな課題を解決しようと奔走しており、上司からそこまでしなくてもいい」と声をかけられることがあるほどです。しかしその顧客第一」で泥臭く取り組む姿勢こそが、信頼を生み、115年という年月を支えてきたのだと確信しています。

寺島氏　井戸を掘る行為はすべて人力による作業の連続でした。そこで創業者は「これから機械の時代に考え、日本で初めて機械による掘削機を開発しました。機械の導入により掘削できる現場は飛躍的に広がりましたが、深い層にある質な水を取り出すことが困難でした。そこで創業者は「これから機械の時代に考え、日本で初めて機械による掘削機を開発しました。機械の導入により掘削できる現場は飛躍的に広がりましたが、深い層にある質な水を取り出すことが困難でした。そこで創業者は「これから機械の時代に考え、日本で初めて機械による掘削機を開発しました。

若林氏　当社が創業した1926（大正15）年は、日本国内で井戸掘削に成功しました。

寺島氏　失敗を恐れず、必要とあらば海外から知見を取り入れる、その柔軟性と突破力が、現在の日さくにつながっているのです。ねその後、海外事業にも挑戦されています。

若林氏　日本国内で駆け寄ってくる子供たちがその水を飲めるよう、地面を掘ってポンプを設置する――。現場は事業環境やニーズも異なるのですね。

若林氏　日本国内で工事するオペレーターについて指摘を受けることがあるベトナムでは、掘削を始めると村中の人が井戸見学に集まります。現実を重んじる現主義が、経営の軸としても息づいていることがよく伝わってきます。現代の経営はマネー偏重化し、金融的数字だけで語られがちですが、地面を掘ってみると感じます。

人材育成と多様性が現場力を支える

若林氏　現場力こそが当社の一番の武器です。現場を支えてくれるのは社員一人ひとりです。高品質かつ安全な工事を行える人を育てなければ現場は安定して機能し続けることができません。

若林氏　現場を支える人材の確保は、特に建設業界において喫緊の課題の一つです。こうした人手不足という対応されているのでしょうか。

若林氏　若手採用については従来は理工系の学問を学んだ学生を中心に採用していましたが、現在は文系の学生も積極的に採用しています。志があれば学歴に関係なく、さまざまな人びとが活躍してくれる人が多いです。また元ではエンジニア人材の活躍を強化しています。当社は2025年4月に定年を65歳から70歳に延長し、継続雇用制度の上限も75歳に引き上げました。彼らには、長年培った熟練の技を若手に伝えるという重要な役割があります。

寺島氏　年齢を重ねても自分の経験や専門性を生かして誇りを持って社会参画ができる環境を整えることは、木人にとってもプラスになるうえ、次の世代への知識や技術の継承にもつながります。高齢者に対応したチャンスにはは、大きな意味があると思います。

若林氏　並行して女性活躍も推進しています。女性社員は全体の30％まで拡大しました。事務職だけでなく、設業界の課題でもある「出産・育児と現場復帰」の両立に加え、女性特有の細やかな視点が現場の精度を高めてくれています。現在は、建

機械掘削で井戸の可能性を切り開く

寺島氏　創業当時から機械は既に明治時代初期にありましたが、機械掘りによる水井戸の取り組みについては当社が先駆者でした。

若林氏　石油の掘削技術を応用して挑みました。うまくいきませんでした。そこでまさまなコネクションをたどり、当時最先端だった米国の機械を導入し、さらに技術者を招き寄せたのです。この挑戦によって、現在も新潟県上越市内と

アフリカ・ネパールで見た水の価値

若林氏　現在はアフリカのケニア共和国で、政府のODA（政府開発援助）プロジェクトを推進しています。なぜアフリカなのです。それは、いまだに多くの集落に安全な水の映像を数時間かけて汲み続け、腐食や異物や対策に集中することにより社員の負担を減らして働き方改革につなげながら、より精度の高いサービスを両立させようとしています。

寺島氏　AIに任せる部分が人が考える部分はっきりしているのですね。

若林氏　AIが便利になっても意外と苦手なうのは怖いと思っています。AI人間性や物事を創造ふかんする力が育ちません。若手には、AIを使う前にまず自分で考えるよう呼びかけています。そのうえで、手書きで業務や日々の出来事を書き出すことを呼びかけています。私の経験上、書くことで記憶に残りやすく、整理できるからです。こうしたアナログでの思考の積み重ねがあるからこそ、デジタル技術を道具として使いこなせます。技術力の上に「人間としての厚みを載せることが、当社が重視する「人間力重視の経営です。

AIと技術革新で働き方改革

寺島氏　一方で、経営の観点からは成功している経営者に共通するのは、自社完結にこだわらず、外部ネットワーク他者の知恵を賢く活用していることです。つまり、基盤となる「インテリジェンス・ユニット」を、経営者はうまく築く努力をすべきだと私は思っており、日さくのように歴史ある企業が高めるためには、こうした外部とのシナジー次世代技術の活用が鍵になるのではないでしょうか。

若林氏　当社もIoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）の導入を進めていますが、これらは自社だけの力ではありません。大学や他社との「縁の中で共同開発を行い、自分たちにない知恵を借りることで実現しています。

寺島氏　そういった柔軟さが、新しい技術を現場に生かして次なる成長につなげる原動力になりますね。

若林氏　当社はIoTだけでなく、地質調査や特殊土木工事も手がけています。特に地質調査は災害現場の状況が多く、人が現場に入って作業していないので危険も大きい。災害のリスクもあります